



2016・6・11

第 241 号

101-0065 東京都千代田区
西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

参院選1人区での野党統一候補の勝利を

文化行事交え9条の意義確認

【東京／九条の会東京実行会】 九条の会東京連絡会の呼びかけた実行委員会の主催する「九条の会東京のつどい」が6月6日開かれ、『リベルタンゴ』で幕が開きました。

講演のトップは日本国際ボランティアセンター代表理事の谷山博史さん。「ボランティアから見た戦争法の危険」と題してカンボジア、アフガニスタンなどでしてきた民生支援活動の経験をもとに、「軍事ではない紛争解決の道」を映像を交えて語りました。

同志社大学大学院教授の浜矩子さんは「アベノミクス批判」と題して、「安倍首相のアホノミクスはいまやド・アホノミクスに進化した」と指摘。アメリカ大統領候補トランプ氏と安倍氏の共通点、安倍氏の「下心」などを縦横無尽に語りました。

九条の会事務局長の小森陽一さんは、「世論が変われば政治家も変わる。政党も変わる」「オール沖縄に学んで、32の1人区で野党共闘の勝利を」と檄をとばしました。

最後の地域・分野からの発言では「ママの会」が初登場しました。

送り出しの曲（交響曲『第九』の最終楽章）を聴きながら元気に散開しました。

「アンケート第1次集約」について

九条の会事務局6月1日、各地の九条の会におこなっていた戦争法反対運動に関するアンケート調査の第1次集約の結果を発表しました。

発表された内容は、九条の会ホームページのトップページから入って読むことができます。

「3の日行動」各地に広がる

【愛知県各地】 愛知県内では6月3日、「アベ政治を許さない」のボードが20カ所以上で一斉に掲げられました。九条の会呼びかけ人の澤地久枝さんが、国会等の行動には参加できない人でもできる行動を、と提起したことに呼応した取り組みです。

＜刈谷市＞ 市内の野田公園では30度近い猛暑の中、「戦争法の廃止を求める刈谷の会」の人たち15人がスタンディング宣伝。

公園でゲートボールをしていた男性（69）は、「平和だから仲間とゲートボールが楽しめる。平和が一番」と話していました。

＜名古屋市熱田区＞ 熱田区の名鉄神宮前駅前では、「戦争法反対あつたの会」の人

たち13人が宣伝。会員らがリレートークし、「参院選でアベ政治NOの意思を示そう」「憲法違反の戦争法を廃止させよう」と戦争法廃止2000万署名の協力を訴えました。

下校中の男子高校生4人が「戦争は嫌だ」「戦争ダメ、ダメ」と口々に言いながら全員が署名。女子高校生(16)も「戦争法はいらないと思います。選挙権がないので署名で意思表示します」と話しました。

同会の西田とし子さんは「署名目標は6000人でこれまで5000人。月内に目標達成に向けてがんばります」と話しました。

【愛媛県松山市ノ三津・高浜9条の会】 三津・高浜9条の会は月3日、15人が参加し、「手をつなごう！ 野党共闘で参院選勝利」の横断幕やプラスターを掲げました。クラクションの激励や自転車を止めて訴えに聞き入る人がいました。

芳野敏雄事務局長、愛媛大学の井口秀作教授らがリレートークしました。

【宮崎県延岡市ノ延岡の会】 延岡市では、戦争法許さない延岡の会がスタンディングと宣伝をしました。司会の甲斐和敏さんは「平和な日本を取り戻すため参院選でアベ政治をやめさせよう」と訴えました。

通りがかった男性は、「戦争に向かうやり方が戦前と今と似ている。党派を超えたこと(参院選挙区の統一候補)はいいこと」と激励しました。

総がかり実行委の呼びかけ受け

【大分県オールおおいた】 大分県内の戦争法廃止を求める市民、団体でつくる「平和をめざすオールおおいた」は5日、「全国総がかり大行動」に呼応して大分市の大分

駅前ではビラを配り宣伝しました。学者や弁護士、市民ら約30人が参加しました。

県弁護士9条の会の宇都宮妙弁護士らが「このままでは憲法9条が壊され、国民が戦争に巻き込まれてしまいます。憲法と平和を守るため参院選で与野党逆転を勝ち取りましょう」と訴え。参加者は「平和を守ろう」「選挙に行こう」などと思いつきに語りかけ、ビラを手渡しました。

ビラを受け取った子どもに母親が、「戦争、けんかはしてはいけないと書いてあるんだよ」と話していました。

同会の街頭宣伝は初めて。「若者、無党派層に声を届けたい」と語っていました。

【香川県ノ戦争法に反対する会】 香川県の戦争法に反対するママの会、障害患者9条の会などは6月5日、総がかり行動に呼応して高松市内をデモ行進しました。

「私たちは戦争しない国をつくる」「みんなで選挙にいこう」と書いたのぼりを手に、「戦争やだから選挙にいこう」「学費が高いよ選挙にいこう」と唱和し、行進しました。

市内の男性(63)は、たなべ健一野党統一候補の勝利へ、私もできる限り支持を広げたいと話しました。

農林水産9条の会が旗あげ

【福島県ノ農林水産9条の会】 「ふくしま農林水産9条の会結成記念集会」が5月29日開かれ220人が参加しました。

元みちのく安達農協組合長の斎藤道雄さんが『『おやじの顔をわかんねえで育った。戦争はダメだ』と語る友人がたくさんいる。命と暮らしが危ない今、生きることの喜びを持ち続けられる大きな力をつくり出そ

う」とあいさつしました。

農業生産法人おひさまファーム・辺野古基金共同代表の菅原文子さんが「9条が押し付けだというなら、本当に押し付けられた安保条約は何で変えろと言わないの」「私の考えの基本は人間が大事にされる国、社会をどう実現するか」と講演しました。

帰還困難区域の浪江町津島からの避難生活を続ける馬場靖子さん、ミナセンなかどおり共同代表の菊地穂奈美さん、父親を原発事故による自死で亡くした樽川和也さんの3人がリレートークしました。

福島市認定農業者会長の阿部哲也さんが「いのちを粗末にする政治勢力にこの参議院選挙で断固たる審判を下しましょう」と訴えました。

市民に真実伝えるマスコミを

【広島県／広島マスコミ9条の会】 広島マスコミ9条の会は5月23日、広島市中区で結成11周年記念講演会を開き、約60人が参加しました。太田武男運営委員が「権力の横暴もさることながら、それを伝えてこなかったメディアの責任は大きい」と開会あいさつ。メディアをゆがめる広告収入には依存しないとの理念で1993年に創刊した雑誌『週刊金曜日』の発行人の北村肇さんが「異議あり！テレビ報道」と題して講演しました。

北村さんは「戦後最悪ともいえる安倍政権の支持率が落ちない最大の理由は、市民に事実と真実が伝わっていないからだ。私たち市民は事実と真実を武器に、マスコミを開眼させるため、優良なメディア、良心的な記者と連帯しよう」と呼びかけました。

「てらけんカフェ」で憲法学習

5月24日の昼下がり、愛知県豊田市の守網寺（しゅこうじ）本堂ではお経でなく、憲法の条文が読み上げられていました。「てらけんカフェ」（お寺で憲法カフェ）です。幼児を連れてママからお年寄りまで約30人が日本国憲法を学びあいました。

守網寺の僧侶、渡辺貴之さん（41）は3人の子の父親。「参院選の結果次第では改憲となるかもしれない。子どもたちの未来のためにも憲法をきちんと知りたい」と日進市などで行われた憲法カフェに参加するなか、集団的自衛権の行使を容認し改憲に前のめりの安倍首相に危機感を募らせ、日進市で憲法カフェを開催する杉政真理さんらと協力し、弁護士を講師に迎え、3月から毎月1回、カフェを開いてきました。

この日の講師は堀江哲史弁護士。「お菓子を作って講師に行くときもある」という元パティシエです。

講義はまずクイズから始まり、「憲法には俳句調（五・七・五）の条文がある？」—「答はマル。23条『学問の自由は、これを保障する』です」

憲法のそもそもから、自民党改憲草案まで。緊急事態条項は国会の議論なしに内閣が法律と同等の政令を作るようにするものだと言われ、独裁の危険を示唆。理解しないで判断するとなれば「後で怖いことになるのでは」と呼びかけました。

読み聞かせ会の鈴木牧穂さん（29）は3回連続の参加。「改憲の仕方がヒトラーのやり方と似ているとわかりました。いまのうちに止めたい」と1歳の息子を見つめ、「徴兵制になったら大変」と。